

## 松谷会長記者会見の概要

日 時：令和2年3月12日（木）15時00分～15時40分

場 所：東京証券取引所ビル地下1階 兜倶楽部

(質疑応答)

記者：

新型コロナウイルスの影響でマーケットが荒れているが、投信市場はどのような状況なのか、また、個人投資家はどのような動きをしているのか伺いたい。

松谷会長：

新型コロナウイルスについて専門的知見があるわけではないが、これだけ感染が世界に広がると人の出入りも制限することになり、世界経済への影響は相当程度大きくなる可能性があるので、景気や市況は予断を許さない状況だと思っている。

ただし、前回も申し上げたように、最近メディアの皆様にも触れていただいているが、リーマンショックやITバブル崩壊の時と同様にこのような状況の中でも、我々投信業界と投信を販売している証券業界・銀行業界は、長期・積立・分散投資という形を資産形成の柱として、投資家に行動していただきたいということを伝えている。こういうときこそ、しっかりと継続する、やめない、そして元々将来のための資産形成であったわけだから、その目標を見失わないということを、協会として訴えていきたいと思っている。

もちろん、メディアの皆様が、日経平均株価が上がったり下がったりしたという情報を伝えていただくことは大事だと思うが、海外のメディアは、資産形成されている方々に対して「慌てないで目標を見失わないでしっかり続けよう」といったメッセージを相当発信している。

私どもも今準備しているところだが、何らかの形で識者の方々に「こういう時こそ積立金額を増やし、慌てないで継続していこう」というコメントをいただく予定である。将来に向けて資産形成するためには、これは大事なことであると確信しているので、皆様にもそういう形で情報を受け取ってもらえればと思っている。

記者：

公募投信の純資産総額の減少額は1年2ヵ月ぶりの規模とのことだが、相場が荒れたことで減少したのか。

松谷会長：

ほとんどそうである。ただし、2月は個人投資家が慌てて大きく売却したという状況はまだ見られないが、3月に入ってからはいったん状況が出ているかもしれない。今のところ、日々の数字を見ている限りでは比較的冷静に捉えられていると思っているが、これだけ毎日株価が下落していると、特にここ2～3年で投資を始められた方々は、投資は怖いという話になりかねないので、売却されるということがあるかもしれない。先程申し上げたよう

に、「こういう時こそしっかり投資を続けよう」というメッセージを丁寧に発信していきたいと思っている。3月の状況を見た上で、またご報告しようと思う。さすがに積み増している人が多くいるとは思えない。

記者：

先程の「こういう時こそ積立をしっかり続けよう」というメッセージだが、こういうときに積み立てておかないと将来どうなるのか、もう少し詳しく伺いたい。今、株が安くなっている時に投げ売ってしまったら、逆にどうすれば将来資産を増やせるのか。

松谷会長：

その点に関しては、今準備をしているので、近々コメントを申し上げたい。

記者：

新型コロナウイルスの影響が本格的に出てきたのは3月からなのか。

松谷会長：

2月は投資家の動きはあまりなかったが、逆張りの個人投資家は買い向かったという状況もあり、売り買いが交錯しているのだと思う。3月ももちろん逆張りをしている人はいると思うが、新型コロナウイルスの影響が大きくなり、世界経済が腰折れする可能性が出ており、皆様が不安になっているので3月は注視しなければならないと思う。だからこそ、ご質問のように、メッセージを出さなければならないと思っている。

記者：

これだけ今相場が下がっているのに、下がったから新しく積み増そうとか、新しく設定しようという動きはまだ出てきていないのか。

松谷会長：

そうである。3月の動きは4月にならないと、残念ながら協会ではつかめないが、今は銀行や証券会社も積極的な勧誘はできない状況だと思う。4月にはそういった状況を報告できるのではないかとと思っている。

記者：

はっきりとしたデータはないが、2月にアメリカの株価が下落した辺りから、投資信託を新たに購入している人が増えているという話を聞いている。

松谷会長：

昔から大きく下がったときには、ブル・ベア投信のようなレバレッジのかかった商品を

(公表用)

購入し、短期間で収益を上げようとする人が多いので、その影響はあるのかもしれない。  
ただし、これは本来の資産形成とは違うものである。

今日ご説明しているのは 2 月末の数字であり、実際に相場が大きく動いたのは 3 月に入ってからである。統計は月単位であり、残念ながら 3 月の動きはつかめていない。

以 上